

# (11) 浮魚類資源調査

## 予算

我が国周辺水産資源調査・評価等委託事業（水産庁委託）

## 概要

浮魚類の長期的な資源および漁業の動向把握を目的として、標本船・標本漁協の漁獲データ、漁獲物の体長組成、および漁船の操業海域・統数について、継続的に調査を実施している。2019年は、漁獲量では、シラス（標本漁協）が前年比146.0%、カタクチイワシ（巾着網標本船）が前年比219.0%、マイワシ（同）が前年比509.9%、マアジ（同）が前年比814.3%、マサバ（同）は前年比126.2%の漁獲であった。また、本事業で得られた情報を用いて4回（春シラス、イワシ類、秋シラス（前半、後半）漁況予報を行い、大阪府立環境農林水産総合研究所ホームページ（水産分野）で公表した。

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/suisan/gijutsu/shirasu/index.html>

## 調査方法

1. 調査定点
  - 1) 漁獲調査  
巾着網標本船、および南部標本漁協における漁獲データをとりまとめた。
  - 2) 卵稚仔調査  
大阪湾全域20定点（浅海定線調査に準じる）
2. 調査期間と実施日  
2019年1月～2019年12月
3. 調査項目  
巾着網魚種別漁獲量、シラス漁獲量、シラスの混獲割合、カタクチイワシ卵稚仔採集数等
4. 調査船  
漁業調査船「おおさか」（19トン、680 kw×2基）

## 調査結果

表1～4のとおり。予報文については資料1～4参照。

## 担当者

大美博昭

表1 浮魚類資源調査 巾着網標本船における魚種別漁獲量 (1ヶ統あたり)

魚種\月	単位：トン											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
カタクチイワシ	1.2	17.7	1.2	88.6	31.8	6.8	11.3	4.2	22.0	75.6	7.8	48.0
マイワシ	1.0	11.1	0	0.8	0	94.3	431.5	333.3	217.6	61.1	0	2.1
マアジ	3.4	2.7	8.7	3.7	2.9	1.1	7.3	2.2	5.7	5.6	0.7	0
マサバ	3.0	3.9	2.1	13.1	1.9	0	0.8	0.9	0.2	0.2	0	0

表2 浮魚類資源調査 南部標本漁協におけるシラス漁獲量結果

魚種\月	単位：トン											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
シラス	0	0	0	0	69.2	96.4	15.8	31.8	63.6	42.6	12.9	21.1

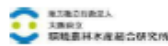
表3 浮魚類資源調査 シラス混獲割合と平均全長結果

魚種\採集日	5月7日	5月13日	5月16日	5月23日	5月30日	6月6日	6月11日	6月17日	6月25日
マシラス	25	164	65	38	2	0	0	1	0
カタクチシラス	48	198	65	138	143	431	518	411	335
ウルメシラス	356	192	102	105	71	19	0	4	0
マシラス	5.8	29.6	28.0	13.5	0.9	0.0	0.0	0.2	0.0
カタクチシラス	11.2	35.7	28.0	49.1	66.2	95.8	100.0	98.8	100.0
ウルメシラス	83.0	34.7	44.0	37.4	32.9	4.2	0.0	1.0	0.0
マシラス	26.2	32.1	33.8	29.9	31.6	—	—	29.4	—
カタクチシラス	26.9	32.6	32.2	26.5	33.4	22.1	19.1	30.5	26.8
ウルメシラス	25.4	28.9	33.0	31.1	31.5	25.9	—	30.8	—

上段：混獲尾数 中段：混獲割合(%) 下段：平均全長(mm)

表4 浮魚類資源調査 カタクチイワシ卵定点別採集数結果

定点\月	丸特ネット1曳網当たり											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	0	0	0	2	1	26	0	1	21	1	0	1
2	0	0	0	0	0	16	0	45	0	1	3	0
3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	4	0	19	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	1	5	233	0	0	0	0
9	0	0	0	6	1	26	4	474	25	1	6	2
10	0	0	0	6	8	40	8	43	26	17	3	0
11	0	0	0	4	9	165	1	12	30	2	25	2
12	0	0	0	22	0	102	118	11	23	2	0	0
13	0	0	0	4	4	529	7	3	7	1	16	6
14	0	0	0	68	43	199	180	2	12	21	3	1
15	0	0	0	9	35	21	22	2	38	12	37	131
16	0	0	0	9	90	172	38	4	1	4	40	26
17	0	0	0	0	21	39	2	5	15	6	4	0
18	0	0	0	2	195	253	4	7	0	84	9	0
19	0	0	0	11	4	417	10	3	157	19	1	1
20	0	0	0	0	26	5	218	3	15	0	0	0



## 平成31年春季シラス(5~6月前半)漁況予報

平成31年4月26日

水産技術センター

### 今後の見通しのポイント

春シラス漁：前年を下回る。

### 1. 海況の概況

潮岬沖の黒潮は、一昨年(2019年)の8月以降、それまでの接岸傾向から離岸傾向に変化し、本年に入っても4月中旬まで大きく離岸する状況が続いています(下表)。国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、今年4~7月における潮岬沖の黒潮は離岸傾向が継続すると予想されており、春季シラス漁期である5~6月前半は離岸して推移すると考えられます。

表 潮岬沖における黒潮の離岸距離 単位：海里(1海里=1,852m)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一昨昨年	19	45	23	20	21	23	18	23	19	20	25	23
一昨年	23	23	20	18	28	24	20	34	46	43	49	70
前年	74	74	78	69	61	61	61	59	76	78	66	74
本年	98	113	109	120								

※本年4月は中旬まで、網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋通報」のデータから算出

### 2. カタクチイワシ卵の出現量および漁況の概要

本年1~3月の日向灘~紀伊水道外域における調査では、カタクチイワシ産卵量(暫定値)は前年の444%、平年の12%と、過去10年で最低であった前年は上回ったものの、平年を大きく下回る水準となりました。また、徳島県、和歌山県の情報によると、紀伊水道外域および紀伊水道では2月、3月にカタクチイワシ卵の採集数はわずかで、外海域と同様、平年に比べ低調な産卵水準でした。大阪湾内では、4月上旬の水産技術センターの調査で、前年を上回る数の卵が採集され、今期の産卵は前年よりも早めに始まったものと推測されます。

紀伊水道周辺における本年春季漁は、外域での漁況は4月上旬現在、比較的好調ですが、水道内では漁が本格的に始まっていません。

### 3. 漁況の予測

大阪湾で春季に漁獲の対象となるシラスは、外海域(日向灘~紀伊水道)で発生し補給されるイワシシラス(カタクチイワシ、ウルメイワシ、マイワシの3種。近年、マイワシシラスの混獲率が上向く傾向にあります。)が主体となります。このため、大阪湾での春季シラス漁の好、不漁は外海域での発生量が多いか少ないか、さらにそれらがシラスとなって大阪湾まで補給されるかどうかにより大きく影響されます。また、漁期後半では内湾で生まれたカタクチシラスの加入状況も漁模様に影響します。

前年は、春シラスの補給源となる外海域でのカタクチイワシの産卵量が低水準で、し

## 資料1 平成31年春季シラス漁況予報 続き

かも潮岬での黒潮の離岸により大阪湾への補給状況が良好ではなく、大阪湾内での本格的な漁獲は前年に比べ3週間ほど遅い5月中旬に始まりました。その後、5月下旬に湾内発生と考えられる群が加入して以降、6月中旬まで前年を大きく上回る漁獲がみられ、春シラス全体としては前年同時期を上回る漁獲量となりました。

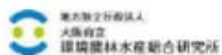
本年は、黒潮流路の予測から、大阪湾へのシラスの補給は前年同様期待できず、さらに紀伊水道内でも漁獲が始まっていないことから、大阪湾における本格的な漁の開始時期も前年と同様、5月に入ってからとなると考えられます。また、外海でのカタクチイワシの発生は、平年を大きく下回る水準となったことから、大阪湾内へのカタクチシラスの来遊量は前年同様、平年を下回る低水準であると推測されます。

一方、内海発生群については、例年、6月中～下旬に加入が始まると考えられています。気象庁の長期予報では5月から6月は気温が高めとなっており、水温も今後高めで推移すると考えられること、4月調査でカタクチイワシ卵の採集数が前年を上回ったことなどから、内海発生群の加入時期は例年よりも早い5月下旬～6月上旬の可能性があります。ただし、この群れの加入については現時点で不確実な状況です。

これらのことから、本年の春季シラス漁(5～6月前半)は、前年を下回る水準の漁となるでしょう。

なお、今後の大阪湾内発生群の状況については、5月中旬に大阪湾におけるカタクチイワシの産卵情報を、また、夏季シラス漁、マイワシ、カタクチイワシ漁については例年どおり6月上旬に漁況予報を、それぞれ発表する予定ですので、参考にしてください。

資料2 令和元年イワシ類漁況予報



令和元年イワシ類漁況予報

令和元年6月14日  
水産技術センター

今後の見通しのポイント

夏シラス：漁期前半は不漁だった前年を上回る。漁期全体では前年並。  
カタクチイワシ：極めて不漁だった前年を上回るが、平年を下回る。  
マイワシ：前年を上回る。

1. 海況の概況

○水温(大阪湾、10m層)

大阪湾の水温は本年1月以降、平年より高めで推移しています(図1)。今後の大阪湾の水温は、気象予報等から判断すると平年並みに近づいていくと考えられます。

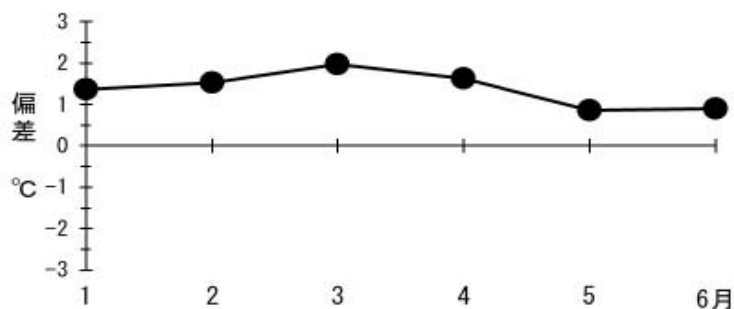


図1 大阪湾の水温平年偏差 (10m層、20 定点平均値)

○黒潮(潮岬正南沖)

潮岬沖の黒潮は、一昨年の8月以降、それまでの接岸傾向から離岸傾向に変化し、本年に入っても大きく離岸する状況が続いています(表1)。国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、本予報期間中は潮岬沖の黒潮は離岸傾向が継続すると予測されています。

表1 潮岬沖黒潮の離岸距離 単位：海里(1海里=1852m)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一昨昨年	19	45	23	20	21	23	18	23	19	20	25	23
一昨年	23	23	20	18	28	24	20	34	46	43	49	70
前年	74	74	78	69	61	61	61	59	76	78	66	74
本年	96	113	109	118	115	105						

※本年6月は上旬まで、網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋通報」のデータから算出

2. イワシ類の漁況、卵の出現状況と予報

(1) 夏シラス (6月後半～8月)

・春シラス (6月前半まで) 漁況の概況

本年の大阪湾における春シラス漁は、前年同様4月の出漁は無く、5月7日から始まりました。黒潮が大きく離岸し、紀伊水道からのシラスの補給が期待できない状況でしたが、漁開始当初の漁獲量は前年同時期を大きく上回りました。ただし、5月はウルメシラスの混獲尾数割合が3～4割と前年(1～2割)に比べ高く、さらにマシラスが1～3割(前年約2割)ほど混獲されていました。5月下旬に一度、漁獲量は減少しましたが、その後、新規加入がみられ、6月上旬以降、現在まで漁獲量は増加傾向となり、カタクチシラスの割合も9割を越えています。

・カタクチイワシ卵の出現

本年のカタクチイワシ卵は、前年同様、5月からまとまった採集量がみられ、5月はプランクトンネット1曳網当たり22.3粒、6月は同100.4粒でした。これらを前年、平年と比較すると、5月は前年の24.0%、平年の64.4%、6月は同じく228.4%、137.7%となり、5月は前年、平年を下回り、6月は前年、平年を上回る量となりました。これらの状況から、本年春季の大阪湾におけるカタクチイワシの産卵水準は平年並みの水準と推定されます。

卵は、5月は湾北東部、6月は湾東部に集中して出現していました(表2、図2)。

表2 カタクチイワシ卵の採集数(本年は速報値)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平年	0	0	0	0.4	34.5	72.9	31.2	26.8	22.1	4.9	1.2	0
過去5年	0	0	0	7.8	136.6	223.7	48.3	26.2	13.0	1.5	2.3	0
前年	0	0	0	0.3	92.8	44.0	87.5	23.2	2.2	0.9	1.8	0.2
本年	0	0	0	7.3	22.3	100.4						

平年値 : S60-H26(30年)の平均値 プランクトンネット1曳網当たりの採集数(粒)

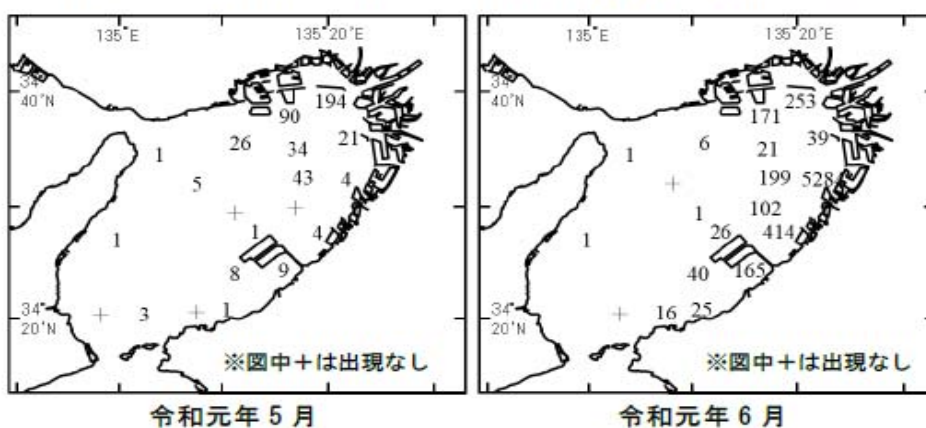


図2 カタクチイワシ卵の採集数(プランクトンネット1曳網あたり)

## 資料2 令和元年イワシ類漁況予報 続き

### ・漁況予報

大阪湾における夏シラス漁は、外海発生群(紀伊水道を通過して大阪湾に來遊する)が春シラスに引き続き漁獲されるのに加え、大阪湾内発生群が6月以降シラスとなって漁獲物に加入します。

黒潮は本予報期間中も離岸傾向が続くことが予測されており、今後の外海発生群の漁獲はあまり期待できません。一方、本年、現時点における大阪湾内発生群は、6月の卵の出現状況から前年を上回る水準と推測されます。なお、漁期後半における加入については現時点で不確実な状況です。

以上のことから、本年の夏シラス漁は、漁期前半は不漁であった前年を上回り、全体では前年並みの漁況となるでしょう。

### (2) カタクチイワシ

大阪湾におけるカタクチイワシ漁では、漁期当初は前年発生1歳の魚が、その後、春季にシラスとして加入した0歳の魚が漁獲の主体になります。

前年発生1歳の魚(体長10cm前後)については、本年春季におけるカタクチイワシの漁獲は前年を上回りましたが、近年中では昨年次いで少ない状況でした。一方、本年の春シラス漁は、開始当初は前年同時期を上回る漁獲となりましたが、カタクチシラスの尾数割合は前年に比べ低く、外海発生群の湾内への流入量は前年同様少ないと見込まれます。これらのことから、本年のカタクチイワシ漁は、極めて不漁であった前年を上回りますが、平年は下回ると考えられます。

### (3) マイワシ

マイワシの全国漁獲量は昭和63年に450万トンもありましたが、平成17年には3万トンまで減少しました。その後は3~8万トン程度の低水準にあります。近年は増加傾向がみられます。

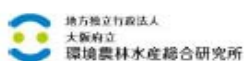
大阪府においては昭和62年からマイワシ漁獲量に減少傾向がみられ、平成10年には最も漁獲量の多かった昭和57年の1000分の1にまで減少しました。現在も依然低水準ですが、平成18年以降若干回復傾向もみられ、平成27年以降、まとまった漁が続いています。

国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、本年春季(2、3月)の外海域におけるマイワシの産卵量は前年を上回りました。また、大阪湾内では春シラス漁において、外海由来である漁開始当初の漁獲量が前年を上回り、マシラスの混獲率は近年と同様高かったことから、大阪湾内への流入は前年を上回る水準であったことが推測されます。

このようなことから、本年の大阪湾におけるマイワシ漁は前年を上回ると考えられます。

今後も大阪湾におけるカタクチイワシの産卵状況については毎月中旬に、また、秋シラス漁の漁況予報については昨年同様9月、11月に再度発表する予定です。参考にしてください。

資料3 令和元年秋季前半シラス漁況予報



令和元年秋季（9～10月）シラス漁況予報

水産技術センター  
令和元年9月12日

今後の見通しのポイント

秋シラス（9～10月）：前年並～上回る。

1. 現在までの海況、漁況等の状況

(1) 海況

○水温（大阪湾、10m層）

大阪湾の10m層水温は、1月から9月までほぼ「平年より高め」で推移しています。（図1）。気象庁による9～11月の天候見通しでは、平均気温は高い確率50%と予想されていることから、今後の水温は平年並み～高めで推移するものと推測されます。

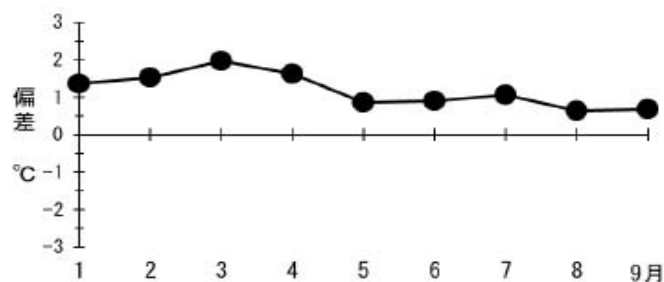


図1 大阪湾の水温平年偏差（10m層、大阪湾20定点平均）

○黒潮（潮岬正南沖）

潮岬沖の黒潮は、一昨年（2018年）の8月以降、それまでの接岸傾向から離岸傾向に変化し、本年に入っても現在まで大きく離岸する状況が続いています（表1）。国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、本予報期間中も潮岬沖の黒潮は離岸傾向が継続すると予測されています。

表1 潮岬沖黒潮の離岸距離

単位：海里（1海里=1852m）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一昨年	19	45	23	20	21	23	18	23	19	20	25	23
一昨年	23	23	20	18	28	24	20	34	46	43	49	70
前年	74	74	78	69	61	61	61	59	76	78	66	74
本年	98	113	109	118	115	106	94	48	85			

※本年9月は中旬まで、網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋速報」のデータから算出



資料3 令和元年秋季前半シラス漁況予報 続き

(2) これまでのカタクチイワシの産卵状況および漁況の推移

本年の大阪湾における春シラス漁は、前年同様4月の出漁は無く、5月7日から始まりました。黒潮が大きく離岸し、紀伊水道からのシラスの補給が期待できない状況でしたが、漁開始当初の漁獲量は前年同時期を大きく上回りました。ただし、5月はウルメシラスの混獲尾数割合が前年に比べ高く、さらにマシラスが1~3割ほど混獲されていました。6月上旬からカタクチシラス主体となり、6月中旬から8月上旬にかけては前年同時期を上回る漁獲が続きました。特に7月は6月の産卵量が前年を大きく上回る水準だったこともあり、不漁だった前年を大きく上回りました。8月中旬以降は、好漁だった前年を下回っています。

(3) 8月、9月におけるカタクチイワシ卵の出現状況

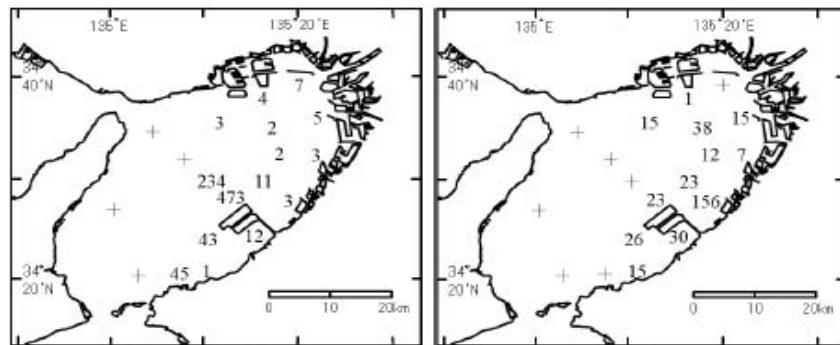
本年のカタクチイワシ卵の採集数は、8月はプランクトンネット1曳網当たり42.4粒、9月は18.1粒でした。これを平年、前年と比較しますと、8月は平年の158%、前年の183%、9月は平年の82%、前年の840%と、8月は平年、前年を上回り、9月は平年を下回ったものの、前年を大きく上回る採集数でした。卵の分布をみると、8月は主に関空島周辺、9月については湾東部の岸沿いの点で採集されました。

以上のことから両月の採集数を総合すると、本年8、9月の大阪湾におけるカタクチイワシの産卵量は、前年を大きく上回る水準であったと推定されます(表2、図2)。一方、稚仔の採集数は前年並みでした。

表2 カタクチイワシ卵の採集数

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平年	0	0	0	0.4	34.5	72.9	31.2	26.8	22.1	4.9	1.2	0
過去5年	0	0	0	7.8	136.6	223.7	48.3	26.2	13.0	1.5	2.3	0
前年	0	0	0	0.3	92.8	44.0	87.5	23.2	2.2	0.9	1.8	0.2
本年	0	0	0	7.3	22.3	100.4	31.9	42.4	18.1			

平年値 :S60-H26(30年)の平均値 プランクトンネット1曳網当たりの採集数(粒)



令和元年8月

令和元年9月

図2 カタクチイワシ卵の採集数(プランクトンネット1曳網あたり)

\*図中+は出現なし

### 資料3 令和元年秋季前半シラス漁況予報 続き

#### 2. 漁況予測

この時期のカタクチイワシの卵は産卵されてからシラスとして漁獲され始めるまで約3週間、主漁獲対象になるまでほぼ1ヶ月かかります。そのため8、9月の卵の量と、この間の生き残りが秋シラスの漁獲量に大きく影響します。

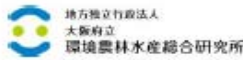
本年8、9月の大阪湾におけるカタクチイワシの産卵量は前年を上回る水準であったと考えられますが、稚仔の採集数は前年並であり、生き残りが低い可能性もあることから、今後のシラス漁への加入水準は前年並～上回るものと考えられます。一方、他海域からのシラスの補給については、潮岬沖での黒潮は離岸傾向が続くことから、あまり望めない状況にあります。

以上のことから、本年秋季（9～10月）のシラス漁は、前年並～上回る漁となるでしょう。

近年、晩秋季の11月以降、シラスが漁獲される例がたびたびみられるようになりました（平成17年、19年、20年など）。そのため、平成21年より秋季シラスを前半（9～10月）と後半（11～12月）に分けて予測しています。

今後も大阪湾におけるカタクチイワシの産卵状況については毎月中旬に発表するとともに、後半の秋季シラス漁況予測については、今後の卵の出現、親魚の状況、海況、他県の漁況等から10月下旬頃にあらためて発表する予定にしておりますので、参考にしてください。

資料4 令和元年秋季後半シラス漁況予報



令和元年秋季（11～12月）シラス漁況予報

水産技術センター  
令和元年11月15日

今後の見通しのポイント

秋シラス：昨年並～昨年を上回る。

1. 現在までの海況、漁況等の状況

(1) 海況

○水温（大阪湾、10m層）

大阪湾の10m層水温は平年に比べ高めで推移しています（図1）。今後の水温は、気象庁による11～1月の天候見通しでは、平均気温は「高い」確率が50%と最も高いことから、今後の水温は平年並み～高めで推移するものと推測されます。

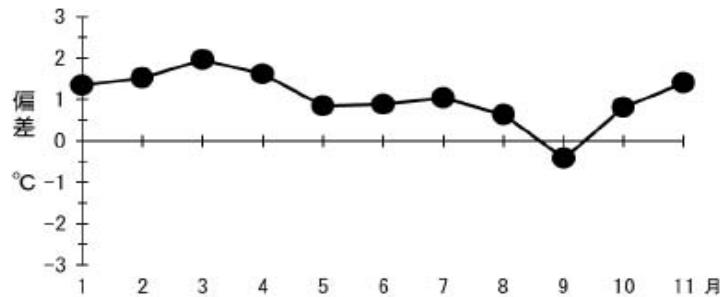


図1 大阪湾の水温偏差（10m層、大阪湾20定点平均）

○黒潮（潮岬正南沖）

潮岬沖の黒潮は、一昨年（2018年）の8月以降、それまでの接岸傾向から離岸傾向に変化し、本年に入っても現在まで大きく離岸する状況が続いています（表1）。国立研究開発法人水産研究・教育機構の情報によると、本予報期間中も潮岬沖の黒潮は離岸傾向が継続すると予測されています。

表1 潮岬沖黒潮の離岸距離 単位：海里 (1海里=1852m)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一昨昨年	19	45	23	20	21	23	18	23	19	20	25	23
一昨年	23	23	20	18	28	24	20	34	46	43	49	70
前年	74	74	78	69	61	61	61	59	76	78	66	74
本年	98	113	109	118	115	106	94	48	93	66	110	

※本年11月は上旬まで、網がけは離岸傾向を示す

※表中の値は海上保安庁「海洋速報」のデータから算出

資料4 令和元年秋季後半シラス漁況予報 続き

(2) 漁況

本年の大阪湾における夏～秋シラス漁は、7月の卵の出現状況が昨年を大きく下回ったことを反映し、8月の漁獲は昨年を下回りました。しかし、8月、9月は卵の採集数が昨年を大きく上回り、シラスの漁獲も9月、10月は昨年を大きく上回りました。11月上旬現在もシラス漁は継続していますが、11月に入り新しく加入する群が少なく、現在は昨年並みの漁獲となっています。

(3) カタクチイワシ卵

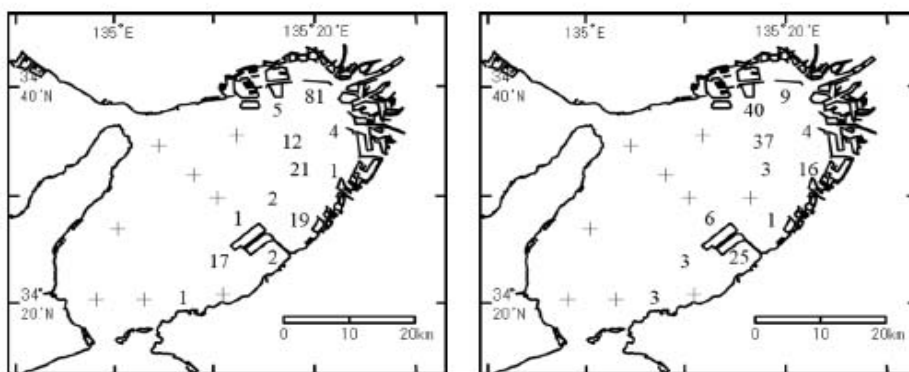
本年のカタクチイワシ卵の採集数は、10月はプランクトンネット1曳網当たり8.5粒、11月は7.4粒でした。これを平年、昨年と比較しますと、10月は平年の173%、昨年の939%、11月は平年の630%、昨年の420%と平年、昨年を大きく上回りました。一方、卵の分布をみると、10月、11月ともに湾奥から東部沿岸の海域で採集されました。

以上のことから、本年10、11月の大阪湾におけるカタクチイワシの産卵量は、平年、昨年を上回る水準と推定されます(表2、図3)。

表2 カタクチイワシ卵の採集数

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平年	0	0	0	0.4	34.5	72.9	31.2	26.8	22.1	4.9	1.2	0
過去5年	0	0	0	7.8	136.6	223.7	48.3	26.2	13.0	1.5	2.3	0
前年	0	0	0	0.3	92.8	44.0	87.5	23.2	2.2	0.9	1.8	0.2
本年	0	0	0	7.3	22.3	100.4	31.9	42.4	18.1	8.5	7.4	

平年値 : S60-H26(30年)の平均値 プランクトンネット1曳網当たりの採集数(粒)



令和元年10月

令和元年11月

図3 カタクチイワシ卵の採集数(プランクトンネット1曳網当たり)

+は採集されなかったことを示す

#### 資料4 令和元年秋季後半シラス漁況予報 続き

##### 2. 漁況予測

この時期のカタクチイワシの卵は産卵されてから主漁獲対象になるまで1ヶ月と少しかかります。そのため9月後半から11月の卵の量と、この間の生き残りが本予報期間のシラスの漁獲量に大きく影響します。

昨年は、10月以降の卵の出現状況が良くなかったものの、11月下旬にややまとまった加入があり、本予報期間としては平年並みで、低調だった前年を上回る漁獲となりました。

今年は、10月の産卵水準が平年、昨年を上回ったものの、11月上旬現在の漁獲は昨年並であることから、これまでの稚仔の生き残りは良好と言えない状況です。一方、11月の産卵水準も平年、昨年を上回っており、稚仔の生き残りが懸念されるものの、今後の湾内発生シラスの加入は昨年並～上回ることが推測されます。

以上のことから、本年秋季（11～12月）のシラス漁は昨年並～昨年を上回る漁況となるでしょう。